

大学医療情報ネットワーク（UMIN）における電子メールとBBSの利用

櫻井 恒太郎 大江 和彦 長瀬 淑子 開原 成允

東京大学医学部附属病院中央医療情報部

UMINは全国の大学病院の機種の異なる大型計算機を結ぶオンラインのネットワークとして1989年に誕生し1992年までで28の国立大学病院が接続された。利用は大学病院の職員に限られているが、UMINが提供する機能のなかで電子メールとBBSは最もよく使われており職員の情報交換と交流に役立っている。

ELECTRONIC MAIL AND BULLETIN BOARD SYSTEM IN THE UNIVERSITY MEDICAL INFORMATION SYSTEM

Tsunetaro Sakurai Kazuhiko Ohe Toshiko Nagase Shigekoto Kaihara
Hospital Computer Center, University of Tokyo Hospital

University Medical Information Network (UMIN) is an on-line network and collaborative structure among university hospitals in Japan. The network was put into operation in 1989, in order to connect all mainframe computers in every university hospitals. By 1992, 28 out of 42 national university hospitals joined to the network. Among various services UMIN provides, the bulletin board system (BBS) and electronic mail (domestic and foreign) has become the most popular.

1. 大学医療情報ネットワークとは

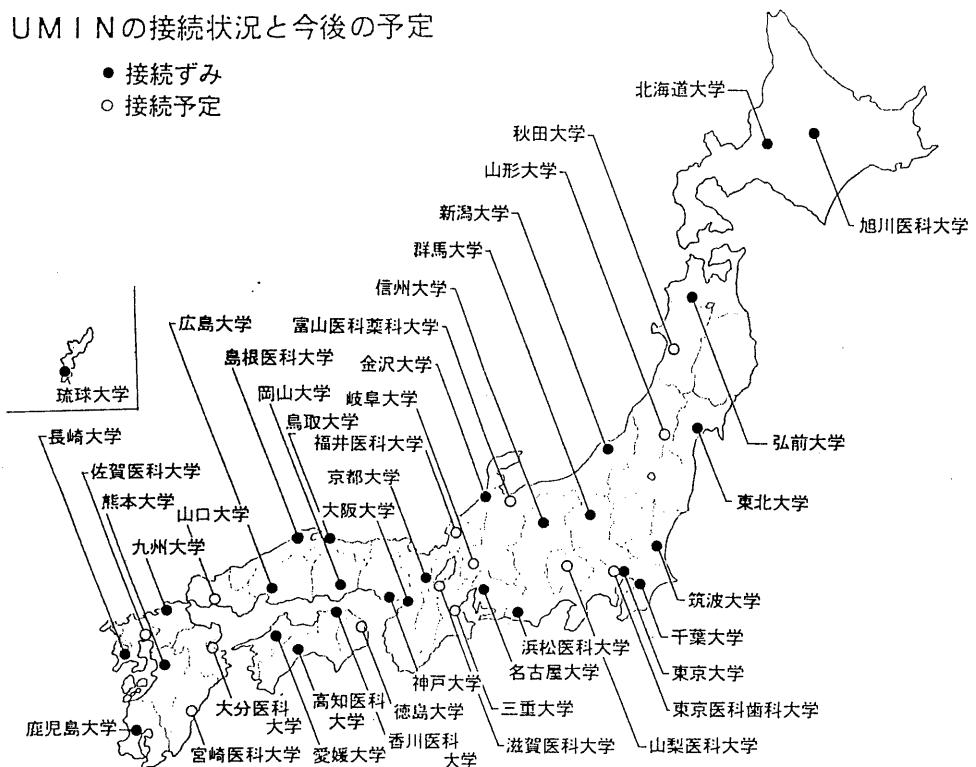
大学医療情報ネットワーク（University Medical Information Network）は国立大学病院の情報処理部門連絡会議を母体に、各大学病院に導入された大型計算機をオンラインで接続して情報交換を行おうとする協力組織として誕生したものである。その主な目的は、大学病院で共通に必要とする情報を提供すること、共同作業で開発を行うことにより各大学病院の負担を減らすこと、大学病院の職員の交流を促進すること、データの標準化や統計の整備を行うことなどが挙げられている。全国に42ある国立大学病院には全て大型計算機が導入され医事会計、患者登録などの他、検査、薬剤、給食など広い範囲の情報処理に用いられるようになっており、特に最近はオーダリングという医師や看護婦が診察室や病棟から端末のキーボードをたたいて検査の指示や薬剤の処方をする利用が広まっている。この様に病院業務においては計算機の広範な利用が行われるようになったが、この情報システムを医療の質の向上につなげるための、より高度の情報交換の一環をUMINが担っている訳である。

2. UMINの機能

UMINのコンピュータはこれらの大学病院のコンピュータとは別に東大病院に設置され、それぞれの大学病院と文部省の学術情報網を介してN1プロトコールで接続されている。本年度までに42大学中28大学の接続が行われ（図1）、また公立、私立大学病院も希望のあるところから個人のレベルで接続されている。

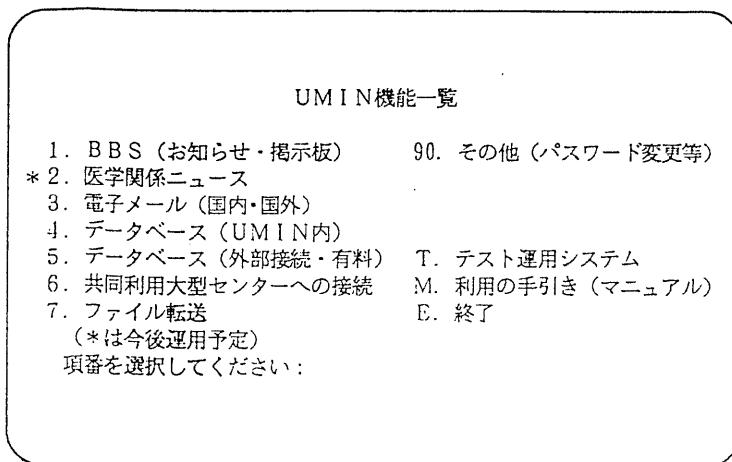
UMINの接続状況と今後の予定

- 接続すみ
 - 接続予定



UMINの主な機能は初期メニュー（図2）にあるように 1. 電子掲示板、電子メールなど情報交換サービス 2. 医薬品添付文書、副作用情報などの医学データベース 3. 外部データベース機関へのゲートウェイ自動ログオン機能 4. ファイル転送機能などである。この中で電子掲示板と電子メールは大変好評で最も多く利用されているシステムである。UMINの利用資格は各大学病院の職員であれば誰でも利用可能であり、医師ばかりでなく看護婦、検査技師、薬剤師、事務職員など多くの職種の病院職員の参加していることが特徴である。現在までに約2000名の利用登録者があるが常時利用している人はその1/10程度である。電子メールはBITNETを通じて国内及び国外の電子メールシステムと接続されており、海外研究者や留学生への連絡、論文の送付等に幅広く利用されている。

図2 UMINの初期メニュー



3. 電子メール、BBSの実際

未読のメールがあればメニューに「メール有」の表示が出る。メニューで電子メールの項目を選ぶことにより受信メールの一覧をみて読むことが出来る。そのまま返信をしたり、編集して転送することも可能である。メールの送信はユーザーID番号を入力するか、知らない場合は名前（カタカナあるいは漢字）で検索することも可能である。グループの設定や複数の宛先への同報送信機能も備わっている。また、海外からのメールも同一のファイルで扱うことができる。宛先とタイトルを入力することによりエディタ (ASPE) が起動し自動的に文書入力画面となる。

BBSは現在図3のような7つのボードがあり、内2つは利用者がそれぞれの委員会メンバーに限定されている。この他にも専門の職種毎に看護、検査などボードを設ける要求が出ており、BBSの階層化も検討している。

4. 今後の問題点

1) 利用環境の整備

UMINは全国の大学病院のどの端末からでもいつでもアクセスできることを目指しているが、各大学の事情により端末台数の不足やシステム構成によりまだ制限がある。大学病院独自のメールシステムを持っているところはまだ少数で、職員が毎朝メールを開けて見るという習

慣ができるまでには少し時間がかかりそうである。UMINのメールと大学病院内のメールとの統一した取扱いも今後の問題である。

2) 接続プロトコールの改善

現在UMINは学術情報ネットワークを介してN1プロトコールを使って接続をしているが、スクリーンエディターの使用が限られることや転送速度が遅いなどの不満が生じている。各大学病院のコンピュータも徐々にTCP/IP接続をサポートするようになっておりUMINでもこのようなプロトコールの採用を準備しているところである。

以上のようにUMINの提供するBBS、電子メールシステムは使い勝手や機能がまだ限らではいるが大学間の壁を越えて専門職の情報交流に有効であり、今後、病院内のシステムとともに発展が期待される。

図3 BBSの一覧

番号	ボードタイトル	略称	状態	未読数(総数)
1:センターニュース	NEWS	読出しのみ	0 (30)	
2:UMIN質問箱	QA		1 (64)	
3:みんなの広場	SALON		0 (338)	
4:おくすりの広場	KUSURI		0 (340)	
5:ネットワーク運営・小委員会	UNEI		0 (4)	
6:医療情報連絡会議常置委員会	JOCHI		0 (32)	
7:電子カルテ	CHART		0 (39)	
8:練習用掲示板	DEMO		7 (33)	

*(番号:テーマ選択 C:投稿 T:再表示 P:環境設定 E:終了):